

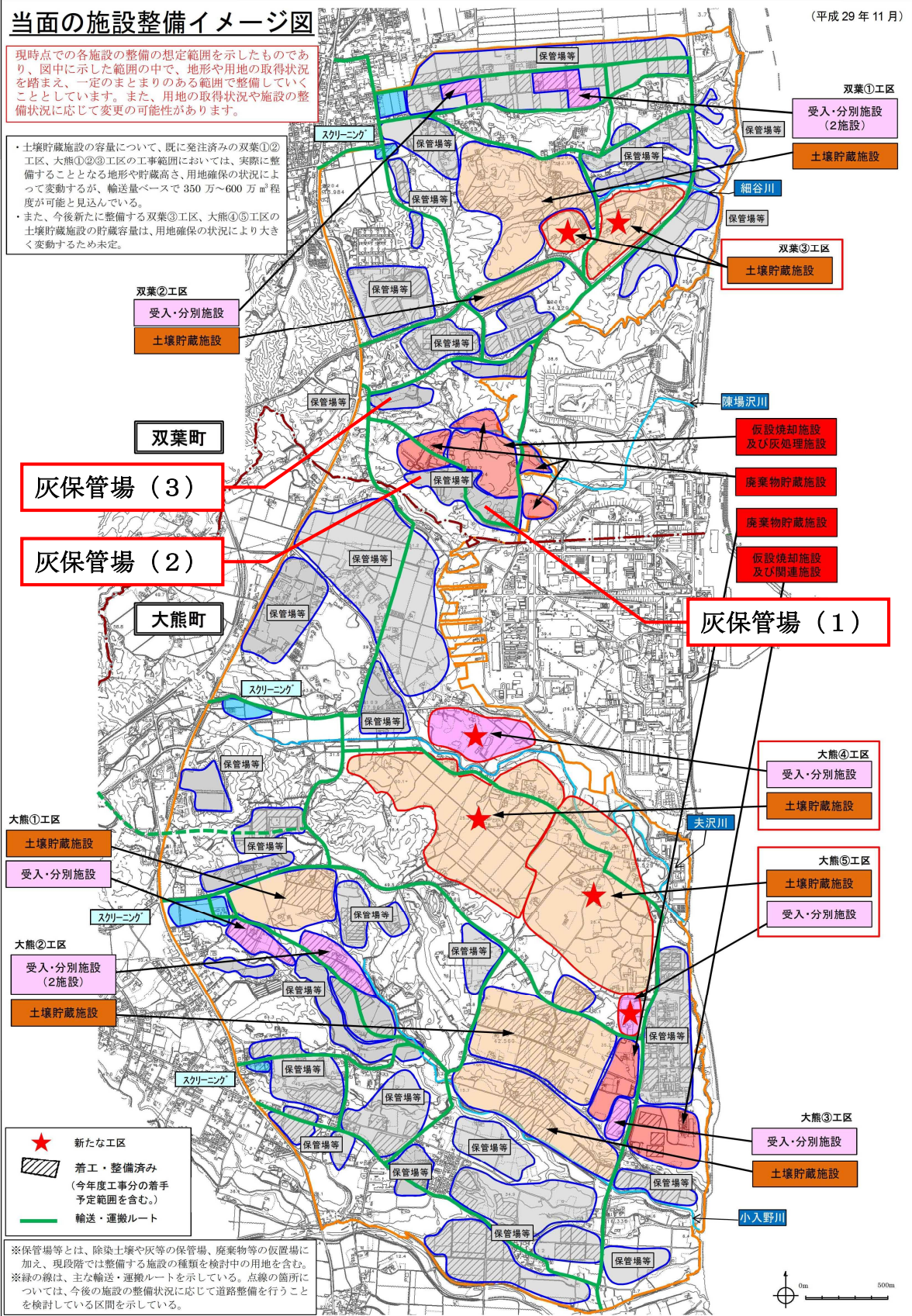
施設位置図

当面の施設整備イメージ図

(平成 29 年 11 月)

現時点での各施設の整備の想定範囲を示したものであり、図中に示した範囲の中で、地形や用地の取得状況を踏まえ、一定のまとまりのある範囲で整備していくこととしています。また、用地の取得状況や施設の整備状況に応じて変更の可能性があります。

- ・土壌貯蔵施設の容量について、既に発注済みの双葉①②工区、大熊①②③工区の工事範囲においては、実際に整備することとなる地形や貯蔵高さ、用地確保の状況によって変動するが、輸送量ベースで 350 万～600 万 m³程度が可能と見込んでいます。
- ・また、今後新たに整備する双葉③工区、大熊④⑤工区の土壌貯蔵施設の貯蔵容量は、用地確保の状況により大きく変動するため未定。



双葉②工区
受入・分別施設
土壌貯蔵施設

灰保管場 (3)

灰保管場 (2)

双葉町

大熊町

大熊①工区
土壌貯蔵施設
受入・分別施設

大熊②工区
受入・分別施設 (2施設)
土壌貯蔵施設

★ 新たな工区
 着工・整備済み (今年度工事分の着手予定範囲を含む)
 輸送・運搬ルート

※保管場等とは、除染土壌や灰等の保管場、廃棄物等の仮置場に加え、現段階では整備する施設の種類の検討中の用地を含む。
 ※緑の線は、主な輸送・運搬ルートを示している。点線の箇所については、今後の施設の整備状況に応じて道路整備を行うことを検討している区間を示している。

双葉①工区
受入・分別施設 (2施設)
土壌貯蔵施設

双葉③工区
土壌貯蔵施設

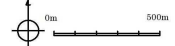
仮設焼却施設及び灰処理施設
廃棄物貯蔵施設
廃棄物貯蔵施設
仮設焼却施設及び関連施設

灰保管場 (1)

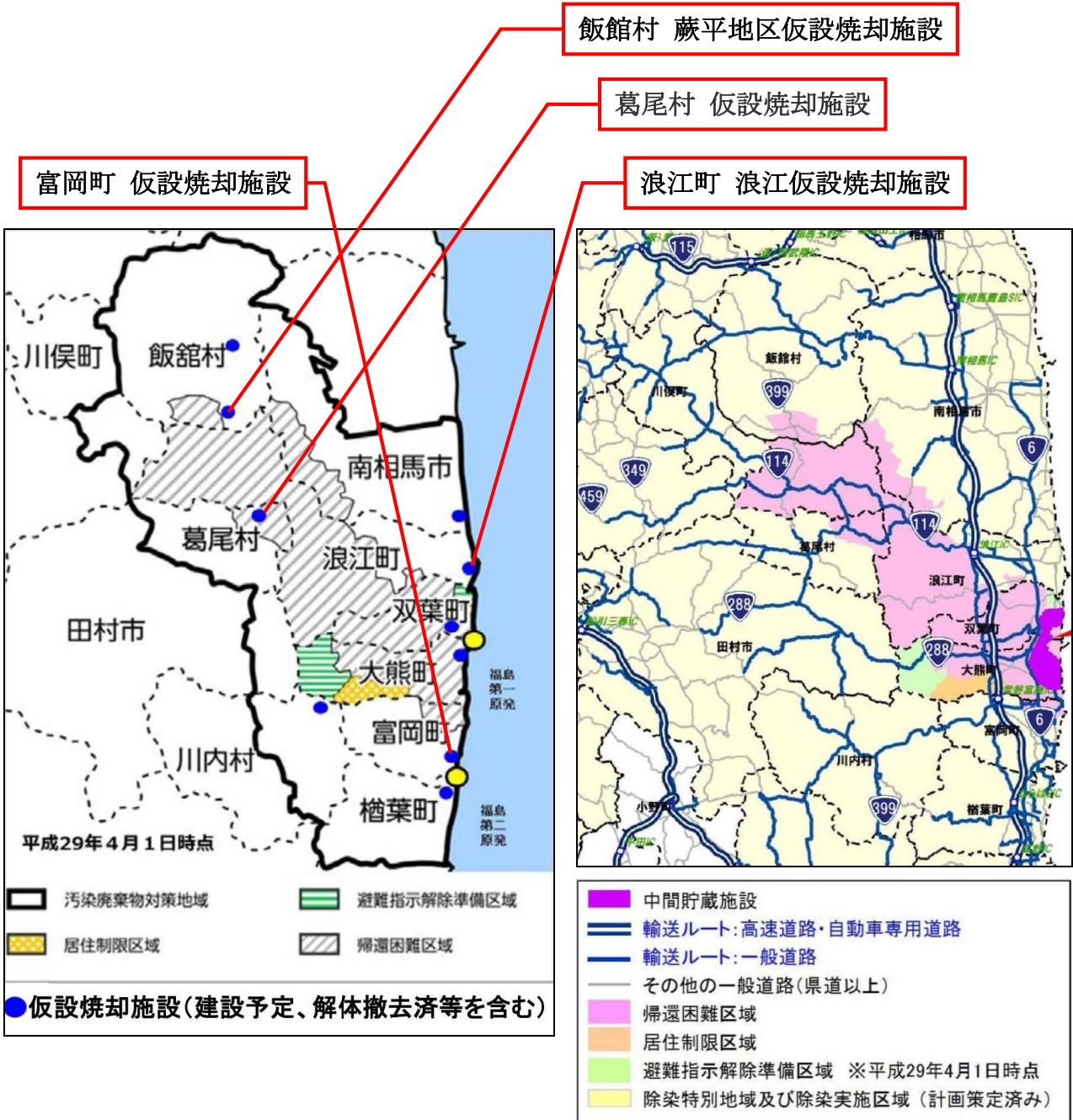
大熊④工区
受入・分別施設
土壌貯蔵施設

大熊⑤工区
土壌貯蔵施設
受入・分別施設

大熊③工区
受入・分別施設
土壌貯蔵施設



仮設焼却施設位置図

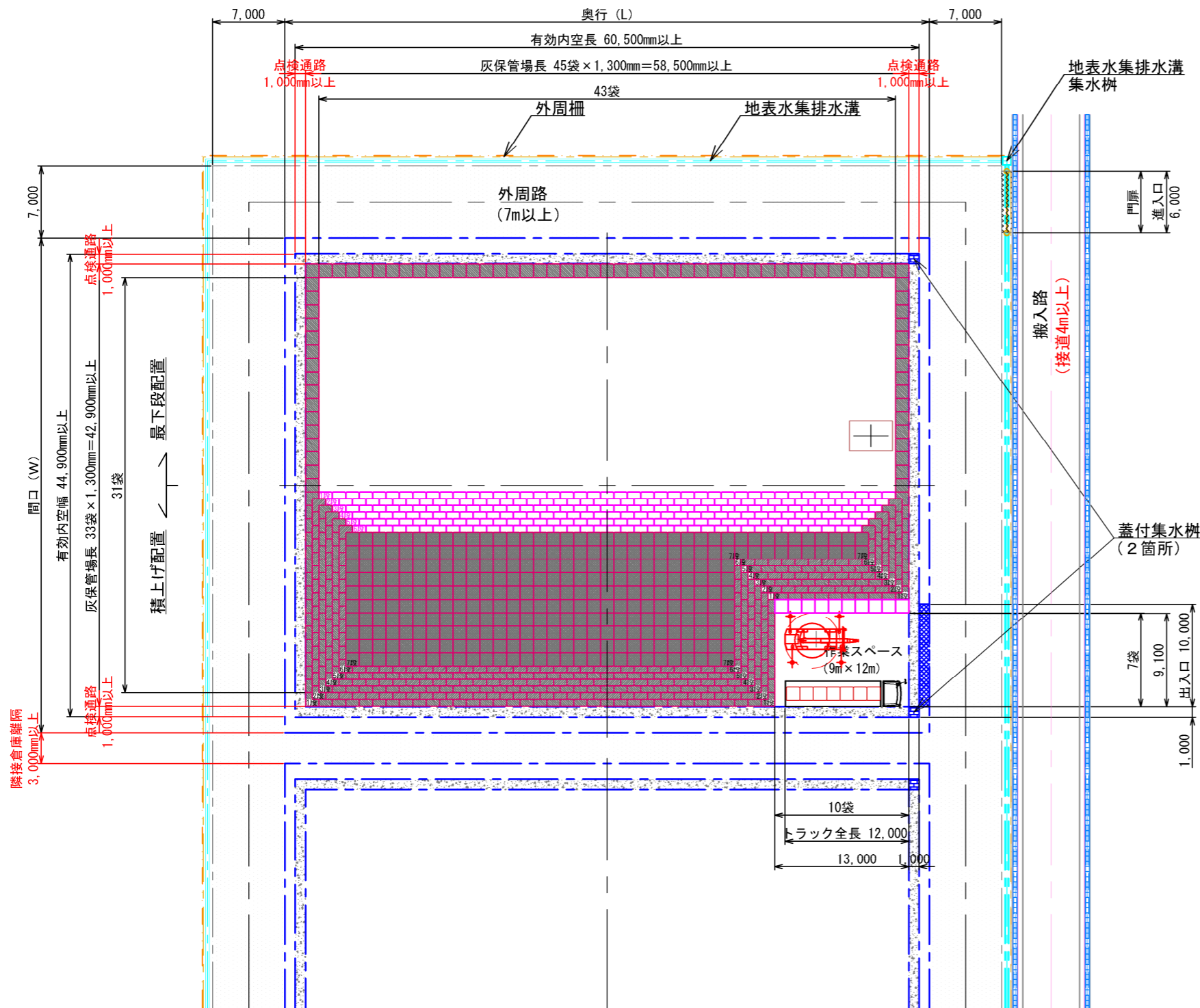


(参考図) 灰保管場標準配置図

S=1:500 (A3)

添付図面 3

延べ面積3,000m²
(48m × 62.5m)



<計画保管量>

$$P = 60,000\text{m}^3 / (1\text{m}^3/\text{袋}) = 60,000\text{袋}$$

<延床面積(1棟当り)>

$$A = \text{間口}(W) \times \text{奥行}(L) = 48.0\text{m} \times 62.5\text{m} = 3,000\text{m}^2$$

<保管容量(1棟当り)>

(列) (行) (作業スペース)

$$V1 = 31\text{袋} \times 43\text{袋} - 10\text{袋} \times 7\text{袋} \dots \text{最下段} \\ + 30\text{袋} \times 42\text{袋} - 10\text{袋} \times 7\text{袋} \dots \text{2段目} \\ + 29\text{袋} \times 41\text{袋} - 10\text{袋} \times 7\text{袋} \dots \text{3段目} \\ + 28\text{袋} \times 40\text{袋} - 10\text{袋} \times 7\text{袋} \dots \text{4段目} \\ + 27\text{袋} \times 39\text{袋} - 10\text{袋} \times 7\text{袋} \dots \text{5段目} \\ + 26\text{袋} \times 38\text{袋} - 10\text{袋} \times 7\text{袋} \dots \text{6段目} = 6,523\text{袋}$$

<必要倉庫数>

$$N = P / V1 = 60,000 / 6,523 = 9.20 \approx 10\text{棟}$$

<必要敷地面積>

$$S = A \times N / 60\% (\text{建ぺい率}) = 3,000\text{m}^2 \times 10\text{棟} / 0.6 = 50,000\text{m}^2 = 5.0\text{ha}$$

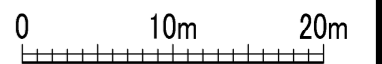
<遮へい土のう(1棟当り)> (側面)

$$V2 = 33\text{袋} \times 45\text{袋} - 31\text{袋} \times 43\text{袋} \dots \text{最下段} \\ + 32\text{袋} \times 44\text{袋} - 30\text{袋} \times 42\text{袋} \dots \text{2段目} \\ + 31\text{袋} \times 43\text{袋} - 29\text{袋} \times 41\text{袋} \dots \text{3段目} \\ + 30\text{袋} \times 42\text{袋} - 28\text{袋} \times 40\text{袋} \dots \text{4段目} \\ + 29\text{袋} \times 41\text{袋} - 27\text{袋} \times 39\text{袋} \dots \text{5段目} \\ + 28\text{袋} \times 40\text{袋} - 26\text{袋} \times 38\text{袋} \dots \text{6段目} = 852\text{袋}$$

(上面)

$$V3 = 27\text{袋} \times 39\text{袋} - 10\text{袋} \times 7\text{袋} \dots \text{7段目} = 983\text{袋}$$

※本図は、標準を示したものであり、必要に応じて現地に合わせた構造とすること。
※保管容器により、積み上げ可能段数が異なることに留意すること。
※付帯設備(外周柵、地表水集排水溝、地下水観測孔等)の設置については、「(環東地除一発第1603141号 平成28年3月14日)除染特別地域における仮置場標準工法(第3版)」(P33)に準じること。



| | | | |
|-------|--------------------|------|---|
| 図面名 | 灰保管場標準配置図 (参考図) | | |
| 作成年月日 | 平成 年 月 | | |
| 縮尺 | 1:500 (A3) | 図面番号 | / |
| 事業者名 | 環境省 福島地方環境事務所 | | |

